

〔巻頭言〕

## 第 20 回数値流体力学シンポジウム報告

実行委員会委員長 中村佳朗†

第 20 回数値流体力学シンポジウムは、平成 18 年 12 月 18 日（月）から 20 日（水）までの 3 日間、名古屋大学で開催されました。これまで 19 年間東京で開催されてきましたが、今回初めて東京を離れ、名古屋で開催されることになりました。記念すべき地方での第 1 回のシンポジウムを担当できて大変光栄に思っています。最近このシンポジウムもマンネリ化し（CFD が十分普及した結果でもある）、地方に出して活性化を図る意味と、もう一つ、支部の維持費を稼ぐという思惑がありました。今回中部支部が担当しましたが、中部支部は平成 16 年 4 月に他に先駆けて発足しました。

数値流体力学シンポジウムは、保原 充先生（名大名誉教授）と大宮司久明先生（東北大名誉教授）が代表で行った科学研究費重点領域研究「数値流体力学」の活動の一環として、1987 年にスタートしたもので、第一回は、大宮司先生が委員長、川原睦人先生（中央大）が事務局長として、中央大学で開催されました。クリスマス直前の 12 月 22～24 日まで開催され、その後長らくこの時期がこのシンポジウムの恒例になりました。

今回、本シンポジウムを開催するに当り実行委員会を作り、大学の他に、名古屋近辺の企業の方にも数多く実行委員をお願いし、総力戦でありました。長谷川達哉先生（名大）には総務を、酒井康彦先生（名大）には会場を、山下博史先生（名大）には広告・展示を、佐宗章弘先生（名大）にはプログラムを、戸田祐嗣先生（名大）にはホームページを、長田孝二先生（名大）には印刷関係を、山本和弘先生（名大）には会計を、櫛田玄一郎先生（愛工大）にはベスト CFD グラフィックスアワードを、後藤俊幸先生（名工大）には懇親会を、それぞれ取りまとめていただきました。他の若手の先生方や実行委員の皆様も貴重な時間を割いて計画・運営に協力していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。アルバイトの学生諸君も授業の合間を縫ってよく働いてくれました。

今回初めての地方開催で、出席者が激減する恐れがあり、講演件数をある程度確保するために、オーガナイズドセッション（OS）を採用しました。OS を 23 セッション設けましたが、これが功を奏し、前年度より約 100 件多い、272 件の講演論文が集まりました。

参加者についても、前年度を参考に、最低 400 名は確保したいと思いつつ、目標は大きく、500 名という数字を掲げました。ふたを開けて見ますと、2 日目に 400 名を超え、3 日目には乱流のセッションもあり、終了時には 507 名に達しました。広告 20 件、展示 9 件もあり、収入的には大変潤いました。



写真 1 懇親会



写真 2 グラフィックスアワード表彰式

† E-mail: nakamura@nuac.nagoya-u.ac.jp

さらに、2日目の懇親会にも、予想した60名をはるかに凌ぐ、約100名の方が参加されました。この席で、CFDグラフィックスアワードの表彰式があり、3件に対して賞状とトロフィーが授与されました。最優秀賞は佐藤静香氏（東工大）他5名の「雲解像領域気象モデルの力学過程へのセミ・ラグランジュ法の導入」、優秀賞は、田中伸厚氏（茨城大学）他2名の「SPH法を用いた三次元血流解析における赤血球の改良」と今村太郎氏（JAXA）他4名の「高揚力装置前縁スラットから発生する広帯域騒音の数値解析」です。



写真3 野依記念学術交流館

会場は、野依記念学術交流館を使用しました。これは、野依良治先生のノーベル賞受賞を記念して2003年に作られた建物で、内部はモダンな感じで天井も高く、とても良い雰囲気でした。ただ、各会場が少し狭かったというコメントをいただきました。この建物以外に2会場を用意しましたが、離れているので移動に不便をお掛けしたかもしれません。講義期間中であり、これが最善の策でした。



写真4 安木剛様（トヨタ自動車）特別講演

特別講演も、分野を分け、バランスを取りました。産業が盛んな名古屋地区として、最近元気の良い地場産業の自動車を代表して、トヨタ自動車の安木剛様に、自動車におけるCFDの設計ツールとしての活用についてのお話しをいただきました。また、井上督先生（東北大）には空力音のシミュレーションについて、小川哲様（JAXA）には燃焼のシミュレーションについて、高橋桂子様（JAMSTEC 地球シミュレータセンター）には気象のシミュレーションについて、それぞれ興味あるご講演をいただき、会場が一杯になるほど盛況でした。

今回この記念すべきシンポジウムが成功したのは、多分に皆様のご協力の賜物と感謝しております。CFDもまだまだ発展する力を秘めていることが分かりました。これからは、東京と地方で交互に開催され、来年は東京でJAXAが担当し、藤井孝蔵先生が具体的な案を考えてくれることになっています。次回の成功をお祈りするとともに、CFDの益々の発展を祈念して、報告とさせていただきます。